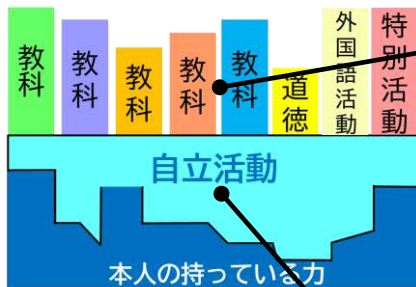


自立活動の改善・充実の方向性



教科等の学習

知識・技能

何を理解しているか
何ができるか

思考力・判断力
表現力等

理解していること・
できることをどう使
うか

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・
世界と関わり、より
よい人生を送るか

教科等の学習を下支えする自立活動

◎自立活動の内容（6区分27項目）

- 人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素
- 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素

健康の
保持

心理的な
安定

人間関係
の形成

環境の
把握

身体の
動き

コミュ
ニケー
ション

◎自立活動の指導計画推進

プロセス



充実を図るポイント

- 実態把握→指導目標の設定→項目の選定
→具体的な指導内容を設定
- 主体的に改善・克服しようとする取組
- 多様な方法で評価

(参考資料) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(中教審第197号)

特別支援教育におけるICT活用の視点



視点1 教科等又は教科等横断的な視点
に立った資質・能力の育成

教科指導の効果を高めたり、情報活用
能力の育成を図ったりするために、ICT
を活用する。

視点2 個々の実態等に応じた自立活動の内容

障害による学習上又は生活上の困難さを改善
・克服するために、ICTを活用する。

(参考資料) 各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料(文部科学省、令和2年9月)

(学年・教科「題材名」) 小学校3学年・図画工作科「くるくるランド」

※ 通常の学級において交流及び共同学習で実施

(自閉症・情緒障害、知的障害特別支援学級在籍児童が参加)

見方・考え方：自分や友達の作品を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分の見方や感じ方を深める。

学習場面：互いの作品のよさや面白さを捉え、感じたり、考えたりしたことを伝え合う。

ICTの活用

視点1：クラウドの活用により、互いの作品について感じたり、考えたりしたことを画像に書き込んで送信し合い、共有する。

視点2：撮影した友達の作品の画像に、コメントを直接書き込んだり、付箋を貼ったりすることにより、自分の思いを表現する。

① 文字を書くことに困難さのあるAさん(自閉症・情障障害特別支援学級在籍)

Aさんは、友達の作品を見ても、書くことが思い浮かばず悩んでいました。先生が言葉を引き出そうと声がけをしますが、なかなか口に出せません。何度も文字を書いては消していましたが、しばらくするとAさんは、「けしきがきれい」と書き込み、「これでいい？送る？」と先生に確認しました。「けしきがきれい」という言葉は、Aさん自身が感じ、考えたことです。また、タブレットの扱いに慣れているので、抵抗なく書き込むことができました。コメントを送ったことで自信がついたのか、それ以降、Aさんはつぶやきが増え、自分から次の友達の作品について考えていました。



視点2：互いの作品について感じたり、考えたりしたことについてのコメントをクラウド上で共有することにより、自信をもって相手に伝える。

② 音声言語のみで伝え合うことに困難さのあるBさん(知的障害特別支援学級在籍)

Bさんは、友達の作品に対するコメントを送信した後、すぐに友達から送信されたコメントを見ました。Bさんはそれらのコメントを声に出して読んだ後、笑みを浮かべながら、「ありがとう」「暗くなってるところがいいってことね」とつぶやいていました。



その後、さらにグループで伝え合う場面でも、暗くなっている部分の工夫のよさが話題にあがりました。Bさんは「壁を黒く塗ったんだけど、もっと暗くなるように黒い折り紙で屋根みたいなのを付けたんだよ」と話しました。事前に友達からもらったコメントにより自分の工夫のよさに気づき、その工夫を具体的に言葉で伝えることができました。

Point 本事例のポイント

- ① タブレットによる文字入力に慣れていることをAさんの強みとして捉え、それを生かす場を設定している。
- ② 口頭で伝え合う前にコメントを文字でやり取りすることにより、Bさんが自分の工夫のよさを文字言語で捉えられるようにしている。それにより、自分の工夫を具体的に口頭で伝えることができています。